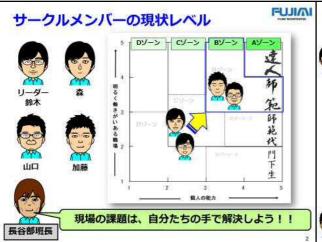
ポンプ保全後の組み直し件数削減

株式会社フジミインコーポレーテッド 各務原工場製造第三課

発表者:森 智雄



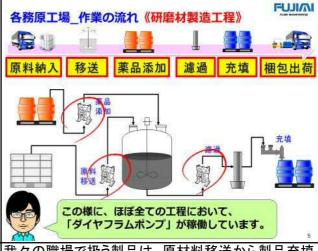
Team Sサークルは「失敗は改善の元」をモットーに 日々改善活動を行っている。



フジミは、一人ひとりの前向きなアイデアとチャレンジ を応援しています。



半導体デバイスにはフジミの製品が不可欠で、世界 中の半導体メーカーで使用されている。



我々の職場で扱う製品は、原材料移送から製品充填 までダイアフラムポンプで移送を行っている。



ポンプ保全後の組み直し件数削減を重要課題としQC「ポンプは、その作動原理によって様々な種類に分類 サークルのテーマとして取上げ活動する。



される(代表的なポンプの種類)。



ダイヤフラムポンプは、エア一圧力を用いて内部のダ イヤフラムを左右に作動させ液体を移送する。



ダイヤフラムポンプの保全には分解、点検、組み立て・試運転まで約2時間45分の時間がかかる。



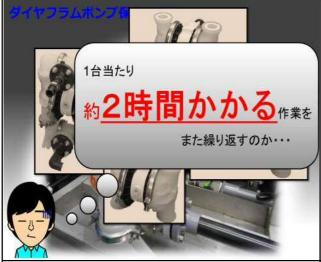
水による試運転での動作確認時に水漏れが発生することがある。

ダイヤフラムポンプ保全(組み直し)

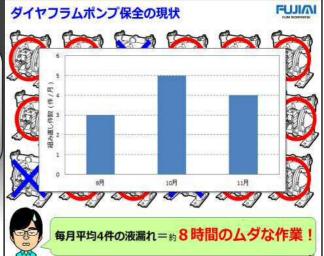
FUJIA



水漏れが発生すると再度、分解、組み直し、試運転を 行い動作確認を行わなければならない。

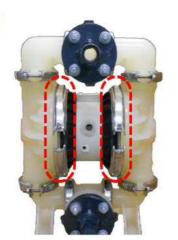


そして組み直しには、約2時間もかかってしまう。



過去3ヶ月で液漏れを調査した結果、月平均4件(合計12件)発生していることが分かり、月約8時間の時間のロスが発生していた。

液漏れ箇所



現状把握~液漏れの仮説原因~

FUJIMI

特性:ダイヤフラムとリキッドチャンバーの隙間からの液漏れ

部品自体が 変形・破損 している

クランフ°ハ"ント"カ 不均等に 締められている

隙間に汚れが 付着している

カッスケット (ラール材) が損傷している リキット チャンパーと 9"1775600

押付けが弱い



ダイヤフラムポンプはいくつものパーツで構成されて おり、水漏れの発生個所は、本体駆動部分のダイヤ フラムとリキッドチャンパーの接続部分であった。

液漏れが起きる仮説原因を4Mの観点から話合い、5 つの仮説原因が挙げられた。その一つ目が部品自体 が変形・破損している。

特性:ダイヤフラムとリキッドチャンバーの隙間からの液漏れ

現状把握~液漏れの仮説原因~

FUJIMI

現状把握~液漏れの仮説原因~

FUJIMI

特性:ダイヤフラムとリキッドチャンバーの隙間からの液漏れ

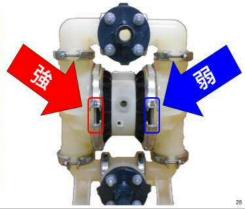
している

クランフ[®]バ"ント"が 不均等に 締められている

隙間に汚れが 付着している

カッスケット(ラール材) が損傷している

りキット^{*}チャンパ*ーと タッイヤフラムの 押付けが弱い



変形・破損

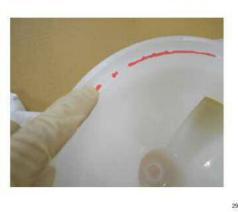
している クランフ[®]バ"ント"が 不均等に 締められている

隙間に汚れが 付着している

カッスケット(ラール材) が損傷している リキット"チャンパ"ーと

タッイヤフラムの

押付けが願い



2つ目がクランプバンドの締め付けが弱く、不均等に 締め付けている。

3つ目がダイヤフラム本体の隙間に研磨材が付着し ている。

特性:ダイヤフラムとリキッドチャンバーの隙間からの液漏れ

現状把握~液漏れの仮説原因~

FUJIMI

現状把握~液漏れの仮説原因~

FUJIMI

特性:ダイヤフラムとリキッドチャンバーの隙間からの液漏れ

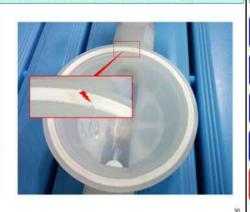
変形・破損

している クランプ[®]バ"ント"か 締められている

隙間に汚れが 付着している

カッフケット (シールまオ) が損傷している

リキット"チャンパ"ーと 9"177560 押付けが弱い



カッスケット (ラールまオ) が損傷している

変形・破損

している クランプ°ハ"ント"が

締められている

隙間に汚れが

付着している

リキット"チャンパ"ーと 9"177560 押付けが弱い

4つ目がダイヤフラム本体のガスケット(シール材)が 破損している。

5つ目がリキッドチャンバーとダイヤフラム押付けが弱 い。5つの仮説原因が挙げられ、検証を行うことに なったが・・・



困ったことに保全方法は、先輩から後輩へ現場で手 順を伝授してきたため、保全手順が「あるべき姿」で あるか分かっていなかった。

FUJIMI 現状把握~液漏れの仮説原因~ これら五つの要因は、 液漏れの原因と なりえるか、教えてい ただけませんか? 承知しました。 我々の知見をお教えいたします。 購入先 ありがとうございます! じゃあ、一つずつ 押付けが弱い ギャップを検証しよう。

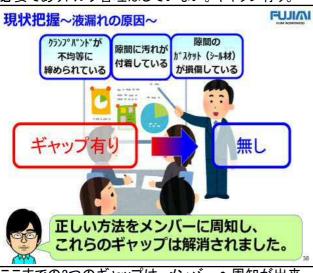
そこで、ポンプの購入先に依頼し、5つの仮説が液漏 れの原因かを教えて頂くことにした。そして、現状との ギャップを検証することにした。



1つ目の変形や破損時は交換していてギャップ無。 2つ目は、クランプバンドの締付けは18N/m程度まで 必要でありトルク管理はしていない。ギャップ有り。



3つ目は、汚れを除去しない人がある。ギャップ有り。 4つ目は、ガスケット交換は破損があった場合のみ交 換している。ギャップ有り。



ここまでの3つのギャップは、メンバーへ周知が出来 れば問題ないため早速勉強会を開催しギャップを解 消した。



リキット"チャンパ"ーと

タ"イヤフラムの

押付けが弱い

明確な数値はありませんが、 押し付けが弱いと液漏れの原 因になりえます。

FUJIMI

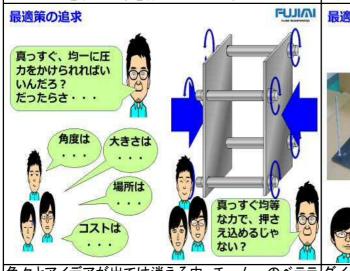


5つ目の押付けが弱いと液漏れ原因となり、押付けの 基準となる数値は無い(不明)とのこと。現状は手で 押さえて締付けており人によって差がある。



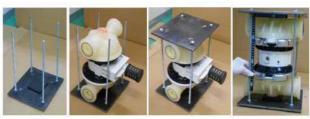
基準となる数値がないため検証ができない。すると支 援者から「数値が無いなら自分たちで作ればいい」と アドバイスを頂き基準を作ることにした。

どのような方向性で実現するか話合い、人によるばら つきを無くす、真っすぐに押付けること、数値化、簡単 で安くできることを最適策追及の方向性とした。



最適策の追求

FUJIMI





押さえつけ冶具でダイヤフラムポンプを 固定します。

色々とアイデアが出ては消える中、チームーのベテラ ンから「鉄板を使用するとバラツキなく押込め安価で ある」ことをアドバイス頂き、早速実行に移した。

ダイヤフラムポンプをセットし鉄板が真っすぐになって いることを確認しながら締め付ける。

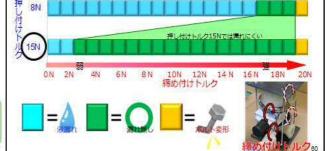




成功シナリオの追求 結果

FUJIMI





ダイヤフラムを鉄板で押す強さを「押し付けトルク」、 クランプバンドを締める強さを「締め付けトルク」と呼ぶことにします。

実際にダイヤフラムポンプを使っても安定感をもって 固定できたため、液漏れがしないための基準値を探 すことにした。

押付けトルクを8Nと15Nの2水準に設定し、締付けトル クを2~20Nで固定した際の液漏れ有無をみた所、押 付けトルク15Nは十分な強さである事が分かった。

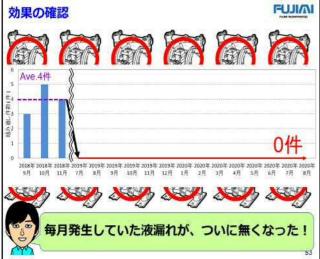


効果の確認

FUJIMI

クランプバンドの変形と稼働中の振動による緩みも考慮し、リキッドチャンバー組み立て時の作業基準値を「押付けトルク15N、締付けトルク16N」と設定した。

|設定した作業基準で組み立てた所、狙い通りに液漏 |れが発生しないことを確認した。

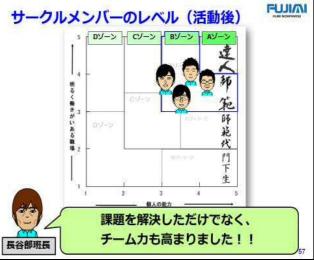


18台のポンプ保全で確認した結果、液漏れは発生することはなく、月平均4件発生していた組み直し作業が削減され、現在も継続中。

本活動では、チームー丸となって「この問題を打破しよう」と課題に取り組んだ結果、アドバイスを頂きながらも解決でき達成感のある活動であった。



ここまでの手順や基準値は標準化し、歯止めとした。



活動中、Bゾーン・師範の二人に必死で追いつこうと活動を進めた結果、全員そろってBゾーン入りが叶った。